

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ざおう開設時に職員全員で話し合い、決めた理念となり、玄関、エレベーターホールに掲示しいつでも確認できるようになっている。	全職員からのアンケートをもとにホーム独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう、事業所内に理念を掲示し、確認しています。また、職員も個人の年度目標を設定し、理念を実践できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回運営推進会議、1ヶ月に1回民児協定例会、みんな食堂への参加を通じ地域とのつながりの構築を図っている。	中学生の体験学習を受け入れたり、保育園の行事にも参加するなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民児協の定例会を通じ、認知症やグループホームの勉強会、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、各出席者それぞれの立場から意見を頂き、施設運営につなげている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター職員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席と定期的な介護相談員の来所を通じ協力関係の構築を図っている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、市の介護相談員も定期的に来て頂くなど、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年全職員対象の学習会を開催、スタッフ室と正面玄関にも禁止の対象となる具体的な行為を掲示。いつでも確認できるようになっている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとし、法人でも身体拘束についての研修を行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年全職員対象の学習会を開催、スタッフ室と正面玄関にも「要介護施設従業者による高齢者虐待の例」を掲示。いつでも確認できるようにしている。	身体拘束研修と同じく、法人にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見人制度を利用していた方が入居しており、現在は日常生活支援事業を利用している方がいる為、日常的関わる機会があり入居前にはどのようなものを職員へは伝えている。また学習の教材も揃えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に明記してある契約の終了についての説明を十分に説明し、署名と押印をもらっている。改定の都度説明、同意を頂く事としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族を呼んでのケアプランの検討会、行事への呼びかけを行っている。また、面会時には状態報告を行い気軽にご意見、ご要望を言って頂ける関係作りに努めている。	ご家族には運営推進会議の場だけでなく、サービス担当者会議、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、玄関には意見箱を設置しているほか、ホームの行事にもご家族に参加して頂き、意向に合わせたサービスが提供できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年目標シートを全職員へ配布し、それを基に面談を行い意見の反映に努めている。また毎月部署会議、ユニット会議を開催している。	職員との個人面談を行い、人事異動の要望も確認する等、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ助成金支給、福祉関係資格手当支給、実績に応じた賞与の支給ほか各種通信教育の費用補助福利厚生の充実など、やりがいのある職場環境と条件に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月学習会を実施。また、定期的に外部の研修へ参加を勧め伝達講習も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修や市主催の地域密着型サービス管理者研修を通じて他事業所と交流を持ち各種研修、事例検討会等によりサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談の時点でご本人からアセスメント表に基づき意向の確認を行っている。また、居室毎に担当職員を設け、関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の段階から不安に感じている事を聞き取り、アセスメント表に基づき意向の確認を行っている。また、居室毎に担当職員を設け、家族との窓口となり関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学の段階で本人、家族の状況・状態を聞き取り、必要時は同法人内のサービスも勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者同士の関係を深める為、食席の検討を定期的に行っている。また、役割を持ち家事作業等をして頂き、生きがいに繋げている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族を呼んでの行事の開催や年賀状などでの手紙のやり取りを通じ本人と家族の関係が切れないように努めている。また家族と共にケアプランの検討会を行い、情報の共有を行っている。	月に1度送付するホーム便りにも居室担当者がご利用者の生活の様子をまとめ、ご家族に近況の報告をしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出や入居前の生活習慣に合わせケアを行っている。また、本人の友人が定期的に面会に来られている。	親族や知人の方に面会に来て頂いたり、ご家族とお手紙のやりとり、他の介護施設に面会に出かけたり、行きつけの床屋の利用を続けたりと、今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を深める為、食席の検討を定期的に行い必要時は職員が仲介しながら関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了までの間は、次の施設が見つかるまで支援を行っている。他の施設へ移られた後も、面会に行ったりと継続的な関係構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ユニット会議を開催し、全ご利用者の思いを把握しケアに繋げている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議にはご家族にも参加していただき、要望を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前にケアマネ、施設職員、家族、本人から十分に情報を聞き取りその人に合った生活環境を作れるように努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の経過記録や、本人の少しの変化に気付けるように日々観察し、定期的なカンファレンスの場を設け職員間で共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の都度ご家族を呼びサービス担当者会議を開催しご意見、ご要望を聞いている。また、担当者会議前には職員間でカンファレンスを実施し意見、アイデアの反映に努めている。	介護計画の日々の実践状況を評価し、6ヶ月に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加していただき介護計画の検討を行っています。	調査時点で介護計画書の日付に誤りがある方もいましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3か月毎にケアプランの見直しを行う為居室担当職員を中心にカンファレンスを行っている。また、定期的なユニット会議を開催し、ご利用者の変化について取り組み評価を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて法人機関、母体診療所と連携を密にし常に柔軟な支援、サービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや町内行事、地域交流区間わいが家でのイベントへの参加を通して楽しみの提供を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族の意向を聞き、主治医を決めている。主治医からの訪問診療が月に2回行われており、必要に応じて当法人のデンタルクリニックからの訪問歯科診療も行われている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診も来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回母体診療所の看護師が状態確認の為訪問して頂き、医療面での連携を行っている。また、必要時は皮膚状態の確認や巻き爪の処置等も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院初期から病院の相談員、病棟看護師との連絡を密にし、本人の状態確認に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについての説明を行い署名、押印を頂いている。また、病状の変化があった段階で家族、主治医含めた意向の確認も行っている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えて頂いています。また、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年全職員対象の法人主催の急変時や事故発生時の学習会に参加している。	毎年1回は法人でもAEDの使用や心肺蘇生に関する研修を行っており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を実施。地域との協力体制構築の為、地域の会議や行事へ参加している。	年に2回、火災・水害を想定した避難訓練を行っており、災害時に備えた非常用の食品や水も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者への尊厳とプライバシーに関する内容のオリエンテーションを全職員入職、配属時に実施している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように法人内研修等で徹底されています。また、広報やホームページへのご利用者の写真の掲載についても契約時に確認されています。	調査時点で職員へ回覧した資料が、ファイルに保管されず職員個人のレターボックスに入ったままの資料もありましたので、職員への周知徹底を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の選択メニューや日々の関わりの中で自己決定が出来るような働き掛けを常に心掛けケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを聞き出せる様に職員との関係構築に努め、その日の体調や気分を考慮し食事のタイミングや入浴の時間を変更しその人のペースに合わせた生活が送れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や身だしなみを必要時は介助しながら、その人に合ったヘアアクセサリ等を使いおしゃれが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の持っている能力に合わせ食事形態を変え、食事の準備、片付けはご利用者と共に行っている。また、月に1回ご利用者と一緒に昼食作りも実施している。	ご利用者にも調理の準備や後片付けを行ってもらっています。ご利用者の意向を調査し、流しそうめんを行ったり、外食にも出かけるなどし、食事が楽しみになるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に2回お茶の時間と入浴後の水分摂取の時間を設け、それ以外の時間も希望時や摂取量が少ない方には適宜提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導と必要時は介助をし、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄板を設け1日の排泄状況の把握を行っている。また定期的なトイレ誘導を行い排泄の失敗に努めている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、必要な方には下剤を使用し調整するなど、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を提供、週に3回寒天ゼリーを提供し下剤に頼らない取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本となる曜日は決めさせて頂いているが、その日その時の体調や気分に合わせて曜日の変更など、臨機応変に対応している。	ご利用者の希望に合わせて同性介助での入浴支援を行ったり、入浴拒否があるご利用者にもうまくタイミングを図り声掛けし、入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を基に就寝時間をその人に合わせ柔軟に対応している。また、眠れない方にはホットミルクを提供したり安心して眠れる支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理を薬局職員を通して行っており、随時内服状況の報告、連絡、相談をしている。また、職員は薬局任せにせず、薬の用法、用量、副作用の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な行事計画、誕生日企画を実施。またその都度ご利用者の意向に合わせた散歩や外出、アクティビティの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族を含め本人と一緒に外出や、屋外での散歩、草花の水やり等日常的に行っている。	ご家族と一緒に外食や温泉に出かけるご利用者もおり、ご利用者と一緒に散歩に出かけたり、季節に合わせたお花見やドライブなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の金庫で1万円程度預らせて頂き、買い物の際などご利用者へ払ってもらったり、可能な方は個人で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはご家族との電話を掛けて頂いている。また、年賀状や暑中見舞いなど入居者からご家族への葉書でのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアの壁画や装飾を作り直しており、季節感を出している。また、トイレや浴室の臭いや環境を定期的に見直している。	共有スペースはゆったりとしており、ご利用者がくつろぎながらテレビを見れる環境です。また、季節のお花を飾ったり、季節に合わせた作品も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや居室以外にゆっくりと過ごせる団らんスペースを設け、一人、または気のあった方とゆっくりとくつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた物を持って来て頂けるようにご家族には説明を行っている。また、出来る限り入居前と同じ空間になるように努めている。	居室には、使い慣れたタンスや仏壇などを持ち込んでもらったり、ホームでの写真やご家族の写真を飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが施設内に設置してあり、危険性のあるものに関しては職員間で話し合い変更、撤去をしている。また、場所の名前を分かりやすく表示する事で自立支援につなげている。		